

数専会だより

発行人
東京女子大学
同窓会数専会
会長 飯山良子
〒167-0041
東京都杉並区善福寺
2-23-11
Tel. 03-3395-4448
Fax. 03-3395-0084
<http://www.geocities.jp/twcmath/index.html>

【総会報告】

日時 平成十九年六月九日(土)
於 七二年館二階

次第

一部 総会議事

- 一、活動報告
- 二、二〇〇六年度 決算報告
- 三、会計監査報告
- 四、二〇〇七年度 予算案
- 五、夏季研修会について
- 六、研究部講座報告
- 七、常任幹事交代について
- 八、その他

二部 琴とヴァイオリン 演奏

一部 総会議事

- 一、活動報告
- 各部報告 (7ページ参照)
- 二、決算報告 (6ページ参照)
- 三、会計監査報告 (7ページ参照)
- 四、予算案 (6ページ参照)
- 五、夏季研修会について
- 今年度は東京女子大学安井てつ記念ホールにて開催される(2ページ参照)。
- 六、研究部講座報告

各講座の代表者より講座の内容、日時、会費等が紹介された。なお現在の研究部

講座については7ページ参照。
七、常任幹事交代について

次の◎印の幹事が総会に先立つクラス幹事会で推薦され、総会で選出、承認された。○印の幹事が担当を交代した。
会長、副会長、常任幹事は次の通り。

- | | |
|------|--------------|
| 会長 | 飯山 良子 (S41) |
| 副会長 | 木谷 玲子 (S37) |
| | 多羅尾千恵 (S43) |
| 庶務 | 山田 洋子 (S41) |
| | 遠藤 陽子 (S45) |
| 厚生 | 平澤真理子 (S52) |
| | ◎堀尾 明子 (S55) |
| 研究 | 高山千津子 (S41) |
| | 庵原ちひろ (S50) |
| 広報 | 岩本 祐子 (S45) |
| | ○荒木 祐子 (S52) |
| 会計 | 松本 友子 (S48) |
| | ○渡辺 信子 (S50) |
| 書記 | 岩崎えり子 (S53) |
| HP担当 | 荒木 純子 (S50) |
| 大学担当 | 杉山 真澄 (S44) |
| 会計監査 | 廣田 貞子 (S24) |
| | 土屋 昌子 (S32) |

八、その他
*同窓会より
同窓会では数専会会員が講師を務めるパソコン講座が十講座ある。
東京女子大学創立九〇周年にむけてさま

さまざまな取り組みを行っている。
創立当時の建学精神の継承のためビデオ収録を計画しており、ただ今数専会の倉橋澄子氏(S19)の収録中。なお安井てつ先生をご存知の方でインタビュウを受けてくださる方を、同窓会に紹介していただきたい。

二部 琴とヴァイオリン 演奏

プログラム

- *六段の調 1600年代 八橋検校
- *千鳥の曲 1855年 吉沢検校
- *月光幻想曲 1920年頃 筑紫歌都子
- *春の海 1929年 宮城道雄

プロフィール

琴 熊谷 正子 氏

昭和45年数理学科卒業
大学入学の年に生田(いくた)流の琴を始める。琴を国重歌純先生、三味線を福田千栄子先生に師事。

ヴァイオリン 関口 桂代 氏

武蔵野音楽大学音楽学部器楽科卒業。
国内外の国際音楽祭にてマスタークラス修了。



ヴァイオリン 関口 桂代 氏
琴 熊谷 正子 氏

【秋の講演会のご案内】

日時 十一月十七日(土)
午後一時半〜三時半
場所 七二年館
会費 1000円

講師 高林 厚子 氏 (S36)

内容 牛乳パックで作る

くるくるキューブパズル

牛乳パックを用いてキューブパズルを作ります。手を使い、頭をほぐして、脳を活性化させましょう。

お申し込み・お問合せ

TEL・FAX ××××××××××××××××

木谷 玲子 (8時〜20時)
準備の都合上、必ずご連絡ください。



なお、六月十六日(土)に開催された同窓会総会において、数専会会員・早川希尹子氏(S42)、今北信子氏(S50)が同窓会理事に推薦され、選出された。

【夏季研修会】

日時 平成十九年七月二十一日(土)
於 東京女子大学安井てつ記念ホール
講演要旨(4, 5.ページ)
講演についての感想を下記に掲載

プログラム

◇十時半～十二時半

「ニッポン数学するヒトビト」

朝日新聞記者

内村 直之氏

◇十二時半～十四時 昼食・懇親会

◇十四時半～十六時半

「男の声・女の声」

東京大学名誉教授

医学博士

廣瀬 肇氏



廣瀬 肇氏

内村 直之氏

講師紹介

◇ 内村 直之氏

科学ジャーナリスト、朝日新聞記者。
東京大学大学院理学系研究科修了(物性理論専攻)。生物学、進化生物学、脳、数学、認知科学、量子力学などの記事を担当。
著書に「われら以外の人類」朝日選書他。

◇ 廣瀬 肇氏

東京大学名誉教授・医学博士
専門・耳鼻咽喉科学の中の音声言語医学
日本耳鼻咽喉科学会監事
日本音声言語医学会名誉会員
日本気管食道科学会名誉会員
著書に「音声障害の臨床」、「運動障害性構音障害学」、「新ことばの科学入門」

夏季研修会に参加して

「ニッポン数学するヒトビト」を伺って

千本 淳子(S22)

現代にご活躍中の数学者の方々と物故された方々を含め、エピソードを沢山織り込んで分かり易く、それらの方々の研究ぶり、果たされた役割など、楽しくご披露していただきました。その人数は三十数人、短い文ではとても難しいので、お話のほんの少しをご紹介します。

オイラーからはじまって、次は、2年ほど前に学士院賞と恩賜賞を受けられた京大の加藤和也氏が皇居で両陛下の前で、「素数の歌はとんからり・・・」と素数の歌をうたって、自らの研究を説明し皇后陛下が喜ばれた話題もありました。

お話を伺う中に私達が、暗号解読の学徒動員でお世話になった福富節男氏のお話があり、興味深く伺いました。数学者にして

は珍しく戦線に出て、暗号解読の作業に取り掛かり、命からがらの帰国後も解読を任命されていらしたとのこと。私達との出会いはその時であったと推察。戦後、日本数学会を設立され、また、数学辞典の編纂に尽くされ、英訳されたものが、世界中に広がった程の出来だったとの事、めでたく十八のお祝いもなさったなどのお話を伺いました。

また京大の佐藤幹夫先生の独得な言葉に「ガン」と頭を打たれました。それは、「今日も一日数学を頑張るぞ」と言っているようでは、とても物にならない。夜数学を考えながら寝て、朝起きた時には、数学の世界に入っていないなければならない。・・・後見略」と弟子の先生に語られたとか。頭をガンと打たれたついでに、過ぎこし方を思い起こせば、戦争中の頃は、数学がチョット好きと言っても、当時の少女達の希望はなかなか、叶えられにくく、夕方の忙しい時に勉強はやめて、家の事の手伝いに・・・とか女のくせに数学?など世間の言葉を気にして、はたまた友達達の空襲による逝去の事とか・・・佐藤先生のお言葉の万分の一の気持ちも持って居ませんでした。(当たり前!)卒業後は、仕事や子育てやらそれぞれ、別の歩き方をして、今や八十の年齢を重ねる頃となりました。

チョロツと数学をかいま見た私達ですが、その幸せは、数学科卒業の先輩方がつくって下さった数専会を、その後が続くかたがたで、りっぱに発展させて下さり、今、平和な世の中で、さまざまな恩恵を頂いて、この世の最後の極楽を折にふれ味あわせて頂いています。今は、若い方たちがご自分の意思で道を選び沢山の「数学するヒトビト」が輩出されていらっしゃるし、ますます

すお若い方の会へのご出席が増えますよう、心から祈って居ます。

内村先生、数専会役員の皆様がた、十二分なお手配とご配慮で研修会を開いて頂き、数学者方のユニークで爽やかなお話を伺うことが出来、心から感謝申し上げます。

なお、内村直之氏が昨年暮朝日新聞「ニッポン人脈記・数学するヒトビト」に連載された記事の中からお話下さったもので、私も新聞から切り抜いてあるので、講演のあと、折に触れ感慨深く読み返して居ます。

「男の声・女の声」

加藤実穂子(S42)

夏季研修会は、先生方、同級生や顔なじみになった数専会の方々にお目にかかり、情報交換や未知の分野に触れ得る良い機会なので、今年も参加するのを楽しみにして参りました。

ご講演は、長さ約六十センチメートルの筒を用いて、先生と同窓生による母音の発音の実演に始まり、声に関する色々なお話を伺うことができました。

実演は同窓生が筒の一方の端から少し強く「ぶー」を五回発声し、先生はその声に同期をとって筒の他方の端から「あ行」の五音を、唇や口腔を発音の時の様に動かすだけで、聴衆の私達にも容易に捉えることができる「あ行」が生成される様を示したもので、声帯の振動によって生ずる声と有意な言葉の音との違いを強調され、認識することができました。

声の高さは声帯の振動数によって決まり、その振動数は声帯の厚さや長さによって決まってくることで、一般に女性の声は高く男性の声は低いが、老人になると男性の声は

声帯が痩せて高くなって行き、女性の声は声帯がふやけて低くなって行くことなどは大変興味深いことでした。

声変わりに関しては、男性ホルモンによつてのどぼとけ（のどの軟骨「甲状軟骨」の上端）が急成長して突出し、声帯が長く、太くなると変声期に入り、日本では十二歳で半数の男児が声変わりしていること、あるボーイソプラノの変声経過（歌声の変化）の紹介もあり、約四、五ヶ月間で完成することも再認識しました。

さらに、カストラート（去勢された男性）の歌声、歌舞伎の女形の声とのどぼとけの関係、うら声、歌謡曲の声、そしてG I D（性同一性障害）の声に関する事など、いろいろな声についてお話し頂き、理解を深めることが出来ました。

そして、急性喉頭炎や男性に多い喉頭癌などの病気は、早く発見できれば治癒できること、その他の病気で声が悪くなっていることもあるので、声に異常を感じたら早めに検査を受けるようにと強調されました。また、ご講演後のパーキンソン病の声についての質問には、「初期には高めなのが酷くなることと出なくなるのは、声帯の筋肉が硬くなることによることなので、声を出すような訓練をすると良い。」というご説明がありました。

ご講演の中から、声の衛生、良い声を保つための心得を次にお伝えしますと、

- ① 声の乱用を慎む。（特に煩い所で仕事を
する人は声帯を酷使しない。高い声、
低い声、力み声などは声帯に悪い。）
- ② 咳払いをしない。
- ③ 乾燥を避け加湿に努める。（水を飲むだ
けでも良い）
- ④ 姿勢を正し、心身リラクセスした気持

ちで話す。

終わりに、今年の研修会では数学的宿題（？）は持ちませんでした。日頃無意識に使っている声帯と前記の心得に留意してこの一年を過ごし、来年も元気で夏季研修会に参加できればと思います。

【会員のトピックス】

— 私の医学部奮闘記 —

浦岡 佳子（S50）

二十六歳、ドイツ人、ソプラノ、美人。今、わが家にホームステイしているミハエラは、松山姉妹都市交流演奏会のため来日した、フライブルグバツハ合唱団の一員である。彼女を迎えるにあたって、私は二十五年ぶりにドイツ語の教科書を開いてみた。ドイツ語といえば、思い出すのが二十五年前のあの日のこと、私はたった一人でドイツ語の追試を受けたのだった。

東京女子大学数理学科を卒業して八年目、私は愛媛大学医学部を受験した。結婚して七年目、六歳の長男と、そのとき私自身は妊娠六ヶ月のことであった。そして合格。予定通り、その年の夏休みに第二子を出産し、順調に二年に進級した。あまりにうまくいったので、二年の間にもう一人ほしい、とよくばったのが綱渡りの学生生活の始まりであった。

そのころ愛媛大学医学部では二年から三年の進級時に、四十人が留年していた。百二十人中の四十人だから、実に三分の一が留年するのである。これはきびしい。しかも、私は妊娠九ヶ月。予定では、進級試験のあとの春休みに第三子を出産し、無事三年に進級する、はずであった。ところが、進級試験の一週間前、九ヶ月目の定期検診

に松山日赤の産科にいくと、主治医から「子宮口が開きかけている、もうまもなくお産です」といわれてしまったのだ。試験は一週間後で、試験期間は四日間。試験終了まで、まだ十一日あるではないか。これはまずい。何とかしなくては。

子供たちを実家に預けて、その日から私は一歩も外に出ず、ずっと家の中で寝ていることにした。背に腹は変えられない。全科の教授に電話して、妊娠していること、予定より早まりそうなこと、そのため進級試験が受けられないかもしれないことを告げた。そして、そのときは、追試を受けさせてほしいと頼んだのである。ほとんどの教授が快く承諾してくれたが、法医学の教授だけは追試を認めてくれなかった。法医学の試験は、四日間の試験期間中の三日目、今から数えて十日後である。「うーん。ちよつと運が悪い。」でも、とにかく安静かつ勉強、である。同級生達が交代で試験の資料を届けてくれた。寝そべて資料の説明を聞く私。持つべきものは友である。いっかお返しするからね。

そうして、二日が過ぎ三日が過ぎ、試験日を迎え、二日目の法医学が無事終了した。やったね！あとは明日のドイツ語の試験を残すのみ。ドイツ語は追試を約束してくれた科目である。開放感でいっぱいになった私は、十日ぶりにみんなと歩き回った。近くの喫茶店でランチを食べて、本屋さんにいき、明日のドイツ語の試験の資料をコピーし、うどんを食べてみんなと別れた。その六時間後、「うーっ！痛い！」陣痛が始まったのである。出産用品とともに、ドイツ語の資料をバックに入れて、松山日赤の産科病棟に入院し、翌日第三子を出産した。その五日後、日赤の向かいにある愛媛大学教

養学部で、たった一人ドイツ語の追試を受けたのである。こうして、とにもかくにも、私は医学部を六年で卒業した。

結婚して、子供を産んで、医学部に入學して、二人の子供を産んで、進級試験、卒業試験、国家試験と髪を振り乱して勉強する私に「お前もつと頭がいいと思つていたが、こんなに勉強しないとだめなのか。」とポツリと主人がつぶやいた。しわ寄せを一身に受けて、私を医学部にいかせたことを後悔した事も、一度や二度ではあるまい。医学部を卒業しても、一人前の医師への道のりは遠く、いつか恩返しできる日が来るのだろうか、とずっと思ってきた。

【いあごわい】

会長 飯山 良子（S41）

今年の夏は日本各地で記録的な暑さが続き、自然が人間の身勝手さに警告を発しているような毎日でございました。

毎年、数専会では各界でご活躍の方に、有意義なお話を聞かせていただく夏季研修会や、秋の講演会がございます。参加なさった方々は様に満足された様子で、とても良いお話が伺えたと喜んで帰路に着れます。今後も、より多くの会員の皆様に興味を持っていただける企画を考えて参ります。日頃は常任幹事が会員皆様のために骨身を惜しまず数専会のためにご尽力くださっています。が、会員皆様のご協力あつての数専会ですので、これからもよろしくお願い申し上げます。

「ニッポン数学するヒトビト」

－ 数学好きの淑女たちへ －

(内村 直之 氏 ご寄稿の講演要旨)

つたない私の講演を聴いていただきありがとうございました。大学・大学院で数学を専攻したこともなくちょっとしたぞきみただけの学問世界について、こんなふうには書いたり話したりするなんておそれおおいこととは思いつつ、でも数学（と数学するヒトビト）好きということにかけては多分皆さんとも並ぶだろうと思ってお話しさせていただきました。でも、退職された先生がおられたり、話に出てきた数学者と懇意の方がおられたりと、まあ、冷や汗ものですね。

講演の中身のほとんどは、私の書いた連載記事（ニッポン人脈記 数学するヒトビト）からの紹介でした。読んでおられない方のために連載を回を追ってタイトルと登場人物だけ紹介しましょう。

- 1 素数の歌はとんからり 議論ざんまい至福の時間（加藤和也、黒川信重、高木貞治、岩沢健吉、志村五郎）
- 2 その人アイデア無尽蔵 弟子に説く「命削れ」（佐藤幹夫、朝永振一郎、彌永昌吉、小平邦彦、伊藤清、柏原正樹、河合隆裕、三輪哲二、神保道夫、木村達雄、小松彦三郎）
- 3 暗号解読「命からがら」 大学追われベトナム反戦（福富節男、ローラン・シュワルツ、スティーブン・スメール、銀林浩、遠山啓、秋葉忠利）
- 4 超高校級気骨の受験誌 プロも焦った東大の難問（黒木正憲、森重文、藤田宏、中田義元、根岸世雄、安田亨、松本眞、古川昭夫）
- 5 貧乏脱出、米国での輝き 突然音楽が鳴るように（小野孝、アンドレ・ベイユ、井草準一、村瀬元彦、佐藤幹夫、正宗淳、小林昭七）
- 6 ぼうし何色わかるかな 画家と教授の名作絵本（安野光雅、野崎昭弘、森毅）
- 7 統計学者意地かけ証言 サリドマイドの害裏付け（吉村功、星野芳郎、武谷三男、高橋暁正、増山元三郎）
- 8 矛盾なき世界証明は？ 年の差夫婦ゲーデルを追う（クルト・ゲーデル、竹内外史、彌永昌吉、八杉満利子、八杉龍一、林晋、新井敏康）
- 9 カマずにフィールズ賞 こんなやさしい学問ない（小平邦彦、広中平祐、森重文、飯高茂、ヘルマン・ワイル、秋月康夫、アンドレ・ベイユ、井草準一、永田雅宜、オスカー・ザリスキー）
- 10 大先生なだめすかして 全館完成ブランデーで乾杯（荒井秀男、高木貞治、小平邦彦、彌永昌吉、亀井哲治郎、安野光雅、森毅、小山透、宮内久男）
- 11 関孝和は「人間電算機」 和算が大好き「算法少女」（関孝和、沢口一之、小松彦三郎、佐藤幹夫、木村欣司、佐藤健一、鳴海風、遠藤寛子）
- 12 屈辱と礼賛高木の生涯 「客観より主観」孤高の岡（高木貞治、岡潔、本田欣哉、高瀬正仁、湯川秀樹、アンリ・カルタン）
- 13 謎の名は「モンスター」 難問への挑戦、終わらぬ旅（原田耕一郎、ダフィット・ヒルベルト、高木貞治、永田雅宜、グレゴリー・ペレルマン、塩谷隆、掛谷宗一、アブラム・ベシコビッチ、レナルト・カルレソン）

うーん、けっこうたくさん数学するヒトビトがいますね。個々の方々にはここでは触れませんが、数学辞典、インターネットなどで調べてみるとけっこういろんなことが書いてあります。

こういう方々に触れられる本を紹介しておきましょう。

まず、連載にも出てきた亀井さんが編集されている雑誌「数学の楽しみ」（日本評論社）。第1期の30冊に続き季刊でさらに続いています。この中から数学者の自伝的エッセイを集めた「数学まなびはじめ」（1、2集 日本評論社）があります。この辺が実はネタもとです。ちゃんとした歴史を知りたい人には「日本の数学100年史」（上、下 岩波書店）をどうぞ。高瀬先生の「評伝 岡潔」（星の章、花の章、海鳴社）はいいなあ。最近の文庫本でもいろんな本がありますね。高木先生の「近世数学史談」（岩波文庫）、解説がすばらしいゲーデルの「不完全性定理」（八杉、林訳 同）……あげていくときりがありません。また次の機会に……

「 男 の 声 ・ 女 の 声 」

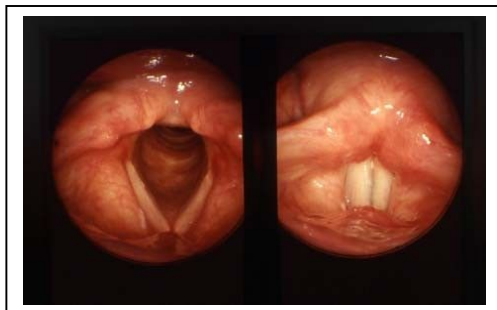
－ 声 と 健 康 －

(廣瀬 肇 氏 ご寄稿の講演要旨)

声は肺から出てくる呼気の流れが左右の声帯を振動させることによって作られる。声帯は喉頭の内壁にある左右一対のヒダのようなもので、呼吸時には左右に開き、発声時に正中に寄る(図1、2)。その時、下方からの呼気で声帯は振動(開閉)して呼気流を断続する。これによって粗密波が発生し、声という音が作られる。つまり、声帯は管楽器のリードに相当する。

男性の話し声は低く、女性の声は高い。声の高さは声帯の振動数で決まり、男女の差は思春期の頃に男子で顕著に起こる声変わりの結果生じる。この時期に男子では男性ホルモンの分泌が盛んになって声帯が太く、長くなるために振動数が低下する。さらにこの時期に男子では喉頭の軟骨が大きく成長して、「のどぼとけ」が目立つようになる。男性が話す時の声帯振動数は120~150Hz位、女性や声変わり前の小児ではその倍くらい、ソプラノ歌手などでは1,000Hz位の声が出ている。だんだん声を高くしていくと裏声になる。歌舞伎の女形は、裏声を使って女性の声をあらわしているが、裏声では「のどぼとけ」が目立たず女性的に見える。一旦声変わりした声を高くするのは、なかなか難しく、最近問題になっている性同一性障害で男性が女性へ性転換を図る際に、女性らしい声を獲得することが一番難しい課題となっている。

声帯は粘膜で覆われた柔らかい組織で、いろいろな病気で障害を受ける。声の異常を「嗄声(させい)」と呼ぶが、嗄声の原因として最も多いのは声帯の炎症で、このほか声帯ポリープなどがある。嗄声には、かすれ声(声帯の閉鎖が不十分で息が洩れる)や、ガラガラ声(声帯振動が不規則で音が濁る)がある。高齢の男性喫煙者では喉頭ガンが重要な病気で嗄声が最初の症状となって発見されることが稀ではない。声の変化は自分で気が付くもので、健康管理の上からは、声の使いすぎや喫煙を控え、健康に留意することで良い声を保つことができる。のどの痛みを伴う風邪症状がある時などには声をあまり使わない方がよいが、退職した男性高齢者などで、声を余り使わないでいると、却って声の健康によくない。とくに体重が減ってくると声帯も痩せて声がかすれがちになる。要するに、適当に声を出して生活することが大切で、もし声の変化が気になる時には、すぐに耳鼻咽喉科を受診するようにしていただきたい。



吸気 発声

図1 上から見た喉頭像

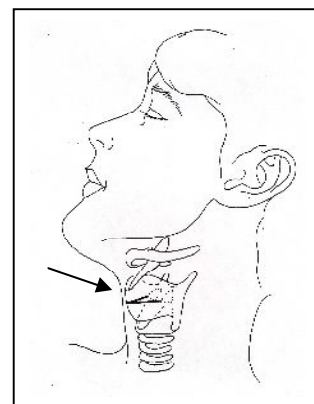


図2 声帯の位置

平成18(2006)年度決算報告

(1) 一般会計

収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
繰越金			
維持運営費 (173名)		郵送通信費	
新入会費 (44名)		印刷費	
バザー		名簿管理費	
預貯金利息		講座補助費	
雑収入 (寄付等)		パソコン関係費	
		会議費	
		総会費	
		運営費	
		バザー	
		雑費	
		予備費	
年度収入合計		年度支出合計	
合計		繰越金	

(2) 基金

収入の部		支出の部	
繰越金			
主催講演会会費		主催講演会	
		パソコン関係費	
合計		合計	
		繰越金	

(3) 数専会保有財産合計

収入の部		支出の部	
(一般会計)+(基金)		(一般会計)+(基金)	
		繰越金	

平成19(2007)年度予算

(1) 一般会計

収入の部		支出の部	
科目	予算額	科目	予算額
繰越金			
維持運営費(750名)		郵送通信費	
新入会費 (卒業見込み数46名)		印刷費	
バザー		名簿管理費	
利息		講座補助費	
		パソコン関係費	
		総会費	
		会議費	
		運営費	
		バザー	
		雑費	
		予備費	
年度収入合計		年度支出合計	
合計		繰越金	

(2) 基金

収入の部		支出の部	
繰越金			
主催講演会会費		主催講演会	
		パソコン関係費	
合計		合計	
		繰越金	

(3) 数専会保有財産合計

収入の部		支出の部	
(一般会計)+(基金)		(一般会計)+(基金)	
		繰越金	

(会計報告をご覧になりたい方は、数専会までお申し出ください)

【会計・会計監査から】
平成十八年度の決算を6ページの通り報告いたします。

会長 飯山 良子
会計 松本 友子
荒木 祐子
精査の結果、相違ないことを認めます。
平成十九年五月十七日
会計監査 廣田 貞子
土屋 昌子

【会計から】

平成十九年度予算が総会にて6ページの通り承認されました。
今年度も、基金を利用して秋に数専会主催の講演会を開催します。その他、基金の有効な利用法がありましたらご提案下さい。常任幹事会にて検討のうえ、総会で使途を決定します。

今年度は維持運営費納入年です。同封払込票に、必ず卒業年をご記入の上、お払込み下さい(同姓同名があります)。整理の都合上、二年ごとの納入をお願いします。なお、払込み手数料は自己負担をお願いします。

【庶務部から】

★庶務(住所管理担当)からのお願い★
・転送された手紙を受け取られたら新住所をご連絡下さい(転送期間は一年です)。
・改姓、名簿変更などは数専会HP、葉書などで必ずお知らせ下さい。
・クラス会開催等で名簿が必要な時は、ご連絡下さい。

【研究部から】

今年の夏季研修会も、昨年同様に母校の安井つ記念ホール二階講座室で開催され、六十余名の方がご参加くださいました。
懇親会も兼ねての昼食は学生食堂でお弁当を囲み、いつものようになごやかで楽しい会

になりました。朝、新幹線で駆けつけてくださった講師の内村先生も参加してくださいました。午後の講師の廣瀬先生は英文科卒の奥様と一緒にいらしてください何十年ぶりのキャンパスを懐かしんでいらつしやいました。キャンパスでの開催は二年続きましたが、大学側も同窓生の使用ということで、好意的に対処してください。最新の設備が整った講座室での講義は、今年のように映像や音声をまじえての講義には適しているように思われます。なるべく多くの方が参加してください。ように幹事達も知恵をしばってありますが、熱心な先輩方のお力に頼っているのが現状です。研修会のあり方や、講師の先生の情報など、いろいろなご意見をお寄せ下さい。

勉強会については、「研究部のお知らせ」で紹介しておりますが、長い間講師を引き受けてくださった清水不二先生、飯山良子先生が退かれ、新たに茶園幸子先生、戸塚三重子先生が、引き継いでくださいました。現在自主ゼミを含め十講座が活動しております。

★勉強会★

- ① 高村多賀子先生ゼミ
- ② 杉山真澄先生ゼミ
- ③ 高校数学勉強会
- ④ 茶園幸子先生ゼミ
- ⑤ 吉田萌子先生ゼミ
- ⑥ パソコン教室
- ⑦ 水曜パソコン教室 戸塚三重子先生
- ⑧ プラムパソコン教室 荒木 純子先生
- ⑨ チェリーパソコン教室 荒木 純子先生
- ⑩ シニアパソコン教室 矢矧かつ子先生
- ⑪ パズル研究会 荒木 純子先生
- ⑫ けやきパソコン教室 塚本 典子先生 (休講中)
- ⑬ 自主ゼミ 石田静子先生ゼミ



【HP担当から】

現在HPは勉強会、夏季研修、講演会等の案内、就職の紹介等、会員相互の親睦に有効に使われる他、数専会の歴史がわかる記事なども掲載しています。今期のHPは、数専会発足当時の数専会会報(1号〜10号)を、順次、掲載していく予定です。数専会のHPにアクセスするためには、左のURLを入力するか、「東京女子大学数専会」で検索すると開くことが出来ます。是非ご覧ください。

Mathematics Group
Alumnus Association
Tokyo Woman's Christian University



写真集



<http://www.geocities.jp/twcumath/index.html>

【大学担当から】

★ 女子大の大学院に男子が入学 ★

1971年に始まった大学院理学研究科修士課程は、2005年に博士課程に変更し、博士後期課程を設置しました。それにもない修士課程は博士前期課程と称されます。特に博士後期課程では出願資格に『性別を問わない』の文言が入りました。2005年1名、2006年1名、2007年1名が入学しています。2名が男子です。そこで、院生に対しアンケートをとりました。

男子2人の入学動機は「研究分野拡大のため」と「社会人入学制度があったため」で、特に東京女子大学とは関係はないそうです。女子の大学院生との関係も、特に違和感なくとけこんでいて、快適な学生生活を送っています。社会人入学された方は土曜日や19時以降の時間帯で研究・勉強に励んでおり、勤務と両立させています。一方、女子の院生たちも、特に違和感はないようです。学問の世界では男女の性差は関係ないと思うので、男子学生の入学に対しては互いに切磋琢磨できるので良いと思っています。しかし、東京女子大という名前に女子がはいっていることや後期課程のみに男子の入学が限定されていることに対しては矛盾や疑問を感じているようです。

【厚生部から】

・専任教員 61件(成立なし)
・時間講師 21件(成立1件)
・学校事務等 3件(成立1件)
数専会ホームページの厚生部求人情報をご利用下さい。随時更新しております。
求職希望者は、ご連絡下さい。

TEL XXXXXXXXXX
平澤 眞理子(S52)



平成19年度 常任幹事

【ゼミ紹介】

高校数学 横浜教室のご紹介とお誘い

奥田 和子(S39)

横浜教室が開設されてから約28年、そのときからの会員が私を含め、また4名おられます。現在は、昭和19年卒の方から63年卒(休会中)の方まで幅広い層で16名が参加しています。堅苦しい勉強会というよりは、高校数学の問題を解くということとを趣味としている会という感じですか。

短い期間、ご指導くださった先生方をふくめ現在5代目の先生は、昭和23年卒の吉田萌子(よしだたみこ)先生です。十月十日生まれなので萌という字をつけられたそうです。洒落たお名前ですね。吉田先生のご指導も、2000年1月からですので8年目になりました。

吉田先生は、毎回直筆のていねいなプリント(問題集+α)を全員にコピーしてくださり、それをおやつと一緒に教室まで運んでくださったりと、その努力には頭が下がります。数学、物理をこよなく愛する吉田先生は、古代の数学者の公式、定理などの説明の合間にその数学者たちのエピソードや裏話など楽しくお話ししてくださいませ。「この公式、美しいでしょう?」「グラフは美しくなくっちゃ!」ロマンチストです。先生がこのようなお話しをされるとさきや、問題の別解を説明されるときなど楽しそうにお話しくださるので本当に数学がお好きなのがよくわかります。

このように幅広い知識やセンスを持っていらつしやる大先輩に教えていただける私達は本当に幸せだと思っています。先生のお人柄で、いつも笑い声が絶えない楽しいお教室です。以前は数研出版のスタンダー

ドの大学受験数学の問題集などもしていますが、ここ数年は教科書傍用の問題集を一冊ずつ解いています。

毎月、第2、第4木曜日、十時から十二時まで。会場は、JR川崎駅直結の川崎ミューザ内の研修室です。教材は九月から教科書傍用4STEP数学B(数研出版)にはいりました。会費は一回千円、五回分ずつ集金します。



静かなお部屋で同じ趣味の人たちと心ゆくまで数学に浸ってみてはいかがでしょう。お勉強が終わりましたら都合のつくひとみんなでお昼。これも魅力のひとつです。まずは見学にいらしてください。お待ちしています。

【支部だより】

群馬支部会

櫻井 典代(S43)

私が群馬支部会に入ってから二十二年が経ちました。生まれは高崎ですが、他の場所から暮らして戻ってきたときに、入会のお誘いを受けました。初めて出席したとき建学の精神を地でいくような凛とした方々が多く場違いな感じも受けましたが、講演会などを通して刺激を受けることも多く出来るだけ出席するようにしています。数専会に所属している先輩たちも素晴らしく、尊敬できる存在です。

支部会は、昭和二十二年六月に発足したそうですので、かれこれ六十年になります。その間三十年誌・五十年誌と二冊の記念誌

も出しています。それによって私たちも先輩たちの歩みを知ることが出来るのです。敗戦後、母校の卒業生の間で何か自分達に出来ることをやろうという機運が高まり卒業生の連携を図って支部が生まれたそうですが、時代の変化に伴ってその存在の意味も変化してきているようです。以前は、数専会のようにテーマを見つけて学習会を持つていたようですが、今は、していません。支部会のほかに、永井路子さんなどの講演会があると皆で出かけていきます。

前回は、湊学長をお迎えして、その素晴らしいお人柄に触れることが出来ました。東京女子大らしさを失わずに改革を進めていく活力に感激しました。

私たちの支部会も若い方がなかなか出席してくれないなど悩みは多いですが、幹事を若い方と中高年の方を組み合わせるとか、泊まりがけで出かけ語り合うとか、いろいろ工夫してやっております。



【東京女子大学追分寮 再建を願って】

若いころを同じ大学で過ごした異なる年代の方々と交流は、心と心とのつながりがあります。群馬に住むようなことがあれば、どうぞお入りください。

追分寮にいらしたことがおありですか? 軽井沢の喧噪を離れ、車で西に十分ぐらいい走ったところに追分宿があります。追分寮は建設されて七十年の歳月が経ち、雨漏りなどの老朽化が著しく使用不能となりました。さらにアスベスト問題もあり、2006年4月に取壊されました。

数専会では、夏季研修会を追分寮で開催していたこともあり、特別の思い入れがあります。このまま追分寮が無くなってしまふには余りにも残念です。

大学は、取壊し後どのようにするかは「2008年度末に諸事情を考慮して改めて検討する」ことに決定しました。

数専会では再建を願う署名を集め、同窓会会長とおして大学に提出していただいております。まだまだこの署名を多くの方にお願ひしたいのです。



追分寮 取り壊された



ホームページよりダウンロードできますので協力よろしくお願ひいたします。

また、ホームページには、数専会有志が追分寮を今後どうするのが望ましいか考え投稿しています。

【編集後記】

秋の講演会も定着し、先輩方が情熱を持って発足された数専会も、会員の皆さまに支えられてますます活発に活動しております。本年も多くの方のご寄稿をいただきまして心より御礼申し上げます。

各地で活躍されておられる方々のお声をお届けし、数専会会員の繋がりを大事にできればと思います。

数専会へのご質問・ご連絡は、1ページをご覧ください。